



## リモート プレゼンスの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- [仮想 KVM の管理 \(1 ページ\)](#)
- [仮想メディアの設定 \(5 ページ\)](#)
- [Serial over LAN の管理 \(11 ページ\)](#)

## 仮想 KVM の管理

### 仮想 KVM コンソール

vKVM コンソールは Cisco IMC からアクセス可能なインターフェイスであり、サーバへのキーボード、ビデオ、マウス (vKVM) の直接接続をエミュレートします。vKVM コンソールを使用すると、リモートの場所からサーバに接続できます。

Cisco KVM コンソールを使用する主な利点は次のとおりです。

- Cisco KVM コンソールは KVM、SOL、および vMedia への接続を提供しますが、Avocent KVM は KVM および vMedia への接続のみを提供します。
- KVM コンソールでは、vMedia 接続が KVM 起動マネージャで確立され、すべてのユーザーが使用できます。
- KVM コンソールには、ゲストからホストにテキストを貼り付ける際に、サポートされていない文字の高度な文字置換オプションが用意されています。
- KVM コンソールには、CIMC に vMedia マッピングを保存する機能があります。

サーバに物理的に接続された CD/DVD ドライブまたはフロッピー ドライブを使用する代わりに、vKVM コンソールは仮想メディアを使用します。これは、仮想 CD/DVD ドライブまたはフロッピー ドライブにマップされる実際のディスク ドライブまたはディスク イメージファイルです。次のいずれでも仮想ドライブにマップできます。

- コンピュータ上の CD/DVD またはフロッピー ドライブ
- コンピュータ上のディスク イメージファイル (ISO または IMG ファイル)

- コンピュータ上の USB フラッシュ ドライブ
- ネットワーク上の CD/DVD またはフロッピー ドライブ
- ネットワーク上のディスク イメージ ファイル (ISO または IMG ファイル)
- ネットワーク上の USB フラッシュ ドライブ

vKVM コンソールを使用してサーバに OS をインストールできます。



(注) vKVM コンソールの操作には、GUI 以外は使用できません。vKVM コンソールの起動手順については、『Cisco UCS C シリーズサーバ統合管理コントローラ GUI 構成ガイド』を参照してください。

## 仮想 KVM のイネーブル化

### 始める前に

仮想 KVM をイネーブルにするには、admin 権限を持つユーザーとしてログインする必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# <b>scope kvm</b>	KVM コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /kvm # <b>set enabled yes</b>	仮想 KVM をイネーブルにします。
ステップ 3	Server /kvm # <b>commit</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 4	Server /kvm # <b>show [detail]</b>	(任意) 仮想 KVM の設定を表示します。

### 例

次に、仮想 KVM をイネーブルにする例を示します。

```
Server# scope kvm
Server /kvm # set enabled yes
Server /kvm *# commit
Server /kvm # show
Encryption Enabled Local Video      Active Sessions Enabled KVM Port
-----
no                                     0                                     yes      2068
Server /kvm #
```

## 仮想 KVM のディセーブル化

### 始める前に

仮想 KVM をディセーブルにするには、admin 権限を持つユーザーとしてログインする必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# <b>scope kvm</b>	KVM コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /kvm # <b>set enabled no</b>	仮想 KVM をディセーブルにします。  (注) 仮想 KVM をディセーブルにすると仮想メディア機能へのアクセスがディセーブルになりますが、仮想メディアがイネーブルであれば仮想メディア デバイスは切断されません。
ステップ 3	Server /kvm # <b>commit</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 4	Server /kvm # <b>show [detail]</b>	(任意) 仮想 KVM の設定を表示します。

### 例

次に、仮想 KVM をディセーブルにする例を示します。

```
Server# scope kvm
Server /kvm # set enabled no
Server /kvm *# commit
Server /kvm # show
Encryption Enabled Local Video      Active Sessions Enabled KVM Port
-----
no                yes                0                no                2068

Server /kvm #
```

## 仮想 KVM の設定

### 始める前に

仮想 KVM を設定するには、admin 権限を持つユーザーとしてログインする必要があります。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# <b>scope kvm</b>	KVM コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /kvm # <b>set enabled {yes   no}</b>	仮想 KVM をイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 3	Server /kvm # <b>set encrypted {yes   no}</b>	暗号化をイネーブルにすると、サーバーは KVM で送信されるすべてのビデオ情報を暗号化します。
ステップ 4	Server /kvm # <b>set kvm-port port</b>	KVM 通信に使用するポートを指定します。
ステップ 5	Server /kvm # <b>set local-video {yes   no}</b>	ローカル ビデオが [yes] である場合、KVM セッションはサーバーに接続されているすべてのモニターにも表示されます。
ステップ 6	Server /kvm # <b>set max-sessions sessions</b>	許可されている KVM の同時セッションの最大数を指定します。sessions 引数は、1 ~ 4 の範囲の整数になります。
ステップ 7	Server /kvm # <b>commit</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 8	Server /kvm # <b>show [detail]</b>	(任意) 仮想 KVM の設定を表示します。

## 例

次に、仮想 KVM を設定し、その設定を表示する例を示します。

```
Server# scope kvm
Server /kvm # set enabled yes
Server /kvm *# set encrypted no
Server /kvm *# set kvm-port 2068
Server /kvm *# set max-sessions 4
Server /kvm *# set local-video yes
Server /kvm *# commit
Server /kvm # show detail
KVM Settings:
  Encryption Enabled: no
  Max Sessions: 4
  Local Video: yes
  Active Sessions: 0
  Enabled: yes
  KVM Port: 2068

Server /kvm #
```

## 次のタスク

GUI から仮想 KVM を起動します。

## 仮想メディアの設定

## 始める前に

仮想メディアを設定するには、admin 権限を持つユーザーとしてログインする必要があります。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# <b>scope vmedia</b>	仮想メディア コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /vmedia # <b>set enabled {yes   no}</b>	仮想メディアをイネーブルまたはディセーブルにします。デフォルトでは、仮想メディアはディセーブルになります。  (注) 仮想メディアをディセーブルにすると、仮想 CD、仮想 フロッピー、および仮想 HDD デバイスがホストから切断されます。
ステップ 3	Server /vmedia # <b>set encryption {yes   no}</b>	仮想メディアの暗号化をイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 4	Server /vmedia # <b>set low-power-usb-enabled {yes   no}</b>	低電力 USB をイネーブルまたはディセーブルにします。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>(注) UCS VIC P81E カードを持つサーバーに ISO をマッピングしているときに NIC が Cisco Card モードである場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>低電力 USB をイネーブルにすると、ISO をマッピングしてホストを再起動した後にカードがリセットされ、ISO マッピングは失われます。仮想ドライブはブートの選択メニューに表示されません。</li> <li>低電力 USB をディセーブルにすると、ISO をマッピングしてホストと Cisco IMC を再起動した後、ブートの選択メニューに仮想ドライブが正しく表示されます。</li> </ul>
ステップ 5	Server /vmedia # <b>commit</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 6	Server /vmedia # <b>show [detail]</b>	(任意) 仮想メディアの設定を表示します。

## 例

次に、仮想メディアの暗号化を設定する例を示します。

```
Server# scope vmedia
Server /vmedia # set enabled yes
Server /vmedia *# set encryption yes
Server /vmedia *# set low-power-use-enabled no
Server /vmedia *# commit
Server /vmedia # show detail
vMedia Settings:
  Encryption Enabled: yes
  Enabled: yes
  Max Sessions: 1
  Active Sessions: 0
  Low Power USB Enabled: no
```

```
Server /vmedia #
```

### 次のタスク

KVM を使用して、仮想メディア デバイスをホストに接続します。

## Cisco IMC マップされた vMedia ボリュームの設定

### 始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # <b>scope vmedia</b>	仮想メディア コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /vmedia # <b>map-cifs {volume-name  remote-share  remote-file-path [マウント オプション]</b>	vMedia の CIFS ファイルをマッピングします。次を指定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>作成するボリュームの名前</li> <li>IP アドレスおよびエクスポートされるディレクトリを含むリモート共有</li> <li>エクスポートされるディレクトリに対応するリモートファイルのパス。</li> <li>(任意) マッピング オプション</li> <li>サーバーに接続するためのユーザー名とパスワード</li> </ul>
ステップ 3	Server /vmedia # <b>map-nfs {volume-name  remote-share  remote-file-path} [マウント オプション]</b>	vMedia の NFS ファイルをマッピングします。次を指定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>作成するボリュームの名前</li> <li>IP アドレスおよびエクスポートされるディレクトリを含むリモート共有</li> <li>エクスポートされるディレクトリに対応するリモートファイルのパス。</li> <li>(任意) マッピング オプション</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	Server /vmedia # <b>map-www</b> { <b>volume-name</b>   <b>remote-share</b>   <b>remote-file-path</b> [マウントオプション]}	<p>vMedia の HTTPS ファイルをマッピングします。次を指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 作成するボリュームの名前</li> <li>• IP アドレスおよびエクスポートされるディレクトリを含むリモート共有</li> <li>• エクスポートされるディレクトリに対応するリモートファイルのパス。</li> <li>• (任意) マッピング オプション</li> <li>• サーバーに接続するためのユーザー名とパスワード</li> </ul>

### 例

次に、CIFS Cisco IMC マップされた vmedia 設定を作成する例を示します。

```
Server # scope vmedia
Server /vmedia # map-cifs sample-volume //10.10.10.10/project /test/sample
Server username:
Server password: ****
Confirm password: ****

Server /vmedia #
```

## Cisco IMC マップされた vMedia ボリュームのプロパティの表示

### 始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # <b>scope vmedia</b>	仮想メディア コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /vmedia # <b>show mappings</b> 詳細	設定されたすべての vMedia マッピングの情報を表示します。

## 例

次に、設定されたすべての vMedia マッピングのプロパティを表示する例を示します。

```
Server # scope vmedia
Server /vmedia # show mappings

Volume Map-status Drive-type remote-share remote-file
mount-type
-----
-----
Huu OK removable http://10.104.236.99/ rhel-server-6.1-x86_64.iso
www
Rhel OK CD http://10.104.236.99/ rhel-server-6.1-x86_64.iso
www
```

## 既存の Cisco IMC vMedia イメージの再マッピング

### 始める前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限でログインする必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # <b>scope vmedia</b>	vMedia コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /vmedia # <b>show saved-mappings</b>	利用可能な保存済みのマッピングを表示します。
ステップ 3	Server /vmedia # <b>remap</b> マッピング ボリューム	VMedia を再マッピングします。  (注) このコマンドの変数として保存されているマッピングのボリューム名を使用する必要があります。
ステップ 4	(任意) Server /vmedia # <b>show mappings</b>	マッピングされた vMedia の詳細を表示します。

## 例

次に、保存されているマッピングに vMedia イメージを再マッピングする例を示します。

```
Server # scope vmedia
Server /vmedia # remap huu
Server /vmedia # show mappings
```

```

Volume           Map-Status           Drive-Type Remote-Share           Remote-File
Mount-Type
-----
huu              OK                   CD          https://10.104.236.99...
ucs-c240-huu-3.0.0.33... www
Server/vmedia # show saved-mappings
Volume           Drive-Type Remote-Share           Remote-File           Mount-Type
-----
huu              CD          https://10.104.236.99... ucs-c240-huu-3.0.0.33... www
Server/vmedia #

```

## Cisco IMC vMedia イメージの削除

### 始める前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限でログインする必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # <b>scope vmedia</b>	vMedia コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /vmedia # <b>delete-saved-mappings</b>	確認プロンプトで <b>yes</b> と入力します。 保存済みのマッピングを削除します。
ステップ 3	Server /vmedia # <b>show saved-mappings</b>	削除されたので、保存されたマッピング は表示されません。

### 例

次の例は、保存されたマッピングの削除方法を示します。

```

Server # scope vmedia
Server/vmedia # show saved-mappings
Volume           Drive-Type Remote-Share           Remote-File           Mount-Type
-----
huu              CD          https://10.104.236.99... ucs-c240-huu-3.0.0.33... www
Server/vmedia # delete-saved-mappings
Purge saved mappings? Enter 'yes' to confirm -> yes
Server/vmedia # show saved-mappings
Server/vmedia #

```

# Serial over LAN の管理

## Serial Over LAN

Serial over LAN (SoL) は、IP を介した SSH セッションを利用して、管理対象システムのシリアルポートの入力と出力をリダイレクトできるようにするメカニズムです。SoL は、Cisco IMC 経由でホスト コンソールに到達するための手段となります。

### Serial Over LAN に関するガイドラインおよび制約事項

SoL にリダイレクトするには、サーバコンソールに次の設定が含まれている必要があります。

- シリアル ポート A へのコンソール リダイレクション
- フロー制御なし
- SoL に設定されたのと同じボー レート
- VT-100 端末タイプ
- レガシー OS のリダイレクションが無効

SoL セッションは、ブート メッセージなどの行指向の情報や、BIOS 設定メニューなどの文字指向の画面メニューを表示します。サーバーで Windows などのビットマップ指向表示のオペレーティングシステムやアプリケーションが起動されると、SoL セッションによる表示はなくなります。サーバーで Linux などのコマンドライン指向のオペレーティングシステム (OS) が起動された場合、SoL セッションで適切に表示するために OS の追加設定が必要になることがあります。

SoL セッションでは、ファンクション キー F2 を除くキーストロークはコンソールに送信されます。F2 をコンソールに送信するには、Escape キーを押してから 2 を押します。

## Serial over LAN の設定

### 始める前に

Serial over LAN (SoL) を設定するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# <b>scope sol</b>	SoL コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /sol # <b>set enabled {yes   no}</b>	このサーバーで SoL をイネーブるまたはディセーブルにします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	Server /sol # <b>set baud-rate</b> { <b>9600</b>   <b>19200</b>   <b>38400</b>   <b>57600</b>   <b>115200</b> }	<p>システムが SoL 通信に使用するシリアルボー レートを設定します。</p> <p>(注) このボー レートは、サーバーのシリアル コンソールで設定したボー レートと一致する必要があります。</p>
ステップ 4	(任意) Server /sol # <b>set comport</b> { <b>com0</b>   <b>com1</b> }	<p>システムが SoL 通信をルーティングするシリアル ポートを設定します。</p> <p>(注) このオプションを使用できるのは一部の C シリーズサーバーだけです。使用できない場合、サーバは常に、SoL 通信に COM ポート 0 を使用します。</p> <p>次を指定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[com0]</b> : SoL 通信は、外部デバイスへの物理 RJ45 接続またはネットワーク デバイスへの仮想 SoL 接続をサポートする、外部からアクセス可能なシリアルポートである COM ポート 0 を介してルーティングされます。</li> </ul> <p>このオプションを選択すると、システムは、SoL を有効にして、RJ45 接続を無効にします。これは、サーバが外部シリアルデバイスをサポートできなくなることを意味します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[com1]</b> : SoL 通信は COM ポート 1 経由でルーティングされます。このポートは、SoL のみを介してアクセスできる内部ポートです。</li> </ul> <p>このオプションを選択した場合、COM ポート 1 上の SoL および COM ポート 0 上の物理 RJ45 接続を使用できます。</p> <p>(注) comport 設定を変更すると、既存のすべての SoL セッションは切断されます。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	Server /sol # <b>commit</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 6	Server /sol # <b>show [detail]</b>	(任意) SoL の設定を表示します。

### 例

次に、SoL を設定する例を示します。

```
Server# scope sol
Server /sol # set enabled yes
Server /sol *# set baud-rate 115200
Server /sol *# commit
Server /sol # show
Enabled Baud Rate(bps)  Com Port
-----
yes      115200           com2
Server /sol # show detail
Serial Over LAN:
  Enabled: yes
  Baud Rate(bps): 115200
  Com Port: com2
Server /sol #
```

## Serial Over LAN の起動

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# <b>connect host</b>	リダイレクトされたサーバコンソールポートへの Serial over LAN (SoL) 接続を開始します。このコマンドは、どのコマンドモードでも入力できます。

### 次のタスク

SoL セッションを終了するには、CLI セッションを終了する必要があります。たとえば、SSH 接続を介した SoL セッションを終了するには、SSH 接続を切断します。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。